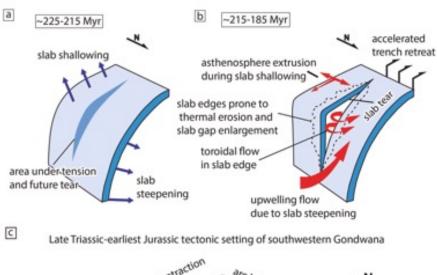


Gianni, G.M., Navarrete, C. and Spagnotto, S., 2019, Surface and mantle records reveal an ancient slab tear beneath Gondwana. *Scientific Rep.*, 9, https://doi.org/10.1038/s41598-019-56335-9.

垂直的なスラブ切断は、現世の収束環境において、沈 み込みやマントルダイナミクスに重要な影響を与えると 広く報告されてきた。しかしながら、海洋プレートが沈 み込んでしまい、地質的な記録が限定されている過去の 収束縁において、類似の影響を評価することは、難しい 課題として残っている。本研究において、我々は、過去 の沈み込み形態を保存している下部マントル構造と上の プレートの地質的記録とを対比し、南西ゴンドワナ下の前期中生代の大規模な切断イベントである深部スラブ断裂を示す.この目的のために、我々は、年代・地質データをP波トモグラフィーおよびプレート復元と統合する.後期トリアス紀-前期ジュラ紀のスラブ切断の発達は、次のi-ivを支持する:(i)下部マントルにおけるスラブギャップ、(ii)火成活動における時空分布の相違、(iii)火成活動の休止、(iv)Neuquén盆およびColorado盆におけるプレート内展張と火成活動.この発見は、沈み込み帯を形作る基本的プロセスの過去の事例の認定といった意味をもつだけではなく、スラブセグメントが逆向きの回転をすることによって、その間にプレートの裂け目ができ、スラブ断裂を引き起こすメカニズムをまた示している.



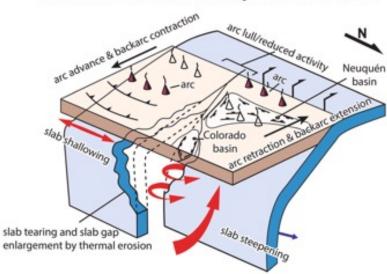


Figure 4. A conceptual model for slab-tearing beneath the southwestern Gondwana margin. (a) Slab-tearing in Late Triassic-earliest Jurassic resulted from synchronous development of slab shallowing in the south and slab steepening in the north inducing tensional stresses in a narrow zone ultimately leading to a slab gap. (b) Expected geodynamic response to the slab-tearing event and expected mantle flow patterns. (c) Late Triassic-Early Jurassic tectonic setting of southwestern Gondwana showing the contrasting tectonomagmatic evolution to the north and south of the inferred slab-tear.

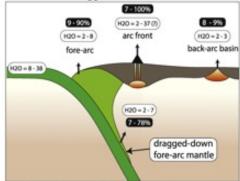
Ribeiro, J.M. and Lee, C.-T., 2017, An imbalance in the deep water cycle at subduction zones: Thepotential importance of the fore-arc mantle. *Earth Planet. Sci. Lett.*, 479, 298–309.

スラブの脱水深度は、沈み込むスラブの温度状態に支 配されると考えられる:冷たいスラブは、主に弧前縁下 で脱水し、暖かなスラブは主に前弧下で脱水する。冷た い沈み込み帯の溶岩は、沈み込むスラブから放出された 水に富む流体と広域的に作用すると予測される。 そし て, 熱い沈み込み帯の溶岩に比べて, より高い含水量 と上昇したスラブ流体の属性(すなわち,高いBa/Th, H2O/Ce, Rb/Th, etc.) をもつ. しかしながら, 弧の溶 岩は、スラブの熱的状態に関係なく、類似したスラブ流 体の特徴を示しており、沈み込み帯における揮発性物質 (volatile)の循環がより複雑であることを示唆している. 本論では、蛇紋岩化した前弧マントルが沈み込み帯の流 体貯留場として重要かどうか、そしてそれが沈み込むス ラブによって引きづられ、弧のマグマの生成に貢献する のか、といったことを検討する。単純なマスバランスと 流体の循環ダイナミクスを用いて、我々は、火山弧の下 で放出された水の流出量を説明するのために、引きずり 込まれた前弧マントルが充分な水(海溝で注

入された水のおよそ 7-78%) を供給しうることを示す. それ故, 弧のマグマによって補足された水がすべてスラブから直接的にもたらされた訳ではなく, かなり多くの水が引きずり込まれた前弧蛇紋岩の脱水を経由した間接的なスラブ由来であることを我々は提案する. 前弧蛇紋岩の脱水は,それが一般的であるなら,弧マグマの似通った地球化学的特徴(すなわち, スラブ流体の属性)を説明する方法になり得るだろう.

(君波和雄)

A- Model of dragged-down fore-arc mantle



The amount of water is reported in 10" g/yr per kilometer of trench.

B- Mass balance calculations

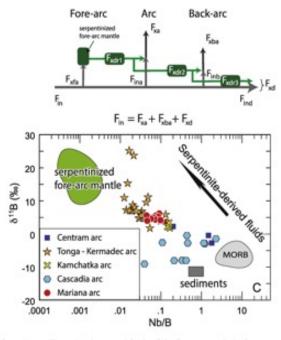


Fig. 1. Figures illustrating the potential role of the fore-arc mantle in the petrogenesis of arc magmas. A) Sketch showing the water budget of a typical subduction zone, with a dragged-down fore-arc mantle. The number represent the amount of water released from the downgoing plate for all the subduction zones investigated here (see Fig. 8 for details). The white numbers within a black oval represent the various water fluxes relative to the water influxes injected at the trenches (in %) as in Table 1 (i.e., for the fore-arc, F_{x0}/F_{in} ; for the arc, F_{xn}/F_{in} ; for the back-arc, F_{xba}/F_{in} ; for the water returned to the lower mantle F_{xd}/F_{in}). B) Sketch summarizing our mass balance calculations, as detailed in Eq. (1) and Eq. (5). Notations can be found in Table 2. C) Nb/B vs 811B diagram of Scamb uri and Tonarini (2012) used to decipher the contribution of the fore-arc serpentinites in arc lavas. Composition of the arc lavas are filtered for primitive composition (i.e., $SiO_2 \le 56$ wt%, $MgO \ge 5$ wt%) whenever possible. We used the dataset of lshikawa and Tera (1999) for the et al. (2004) for Cascadia, Ishikawa et al. (2001) for Kamchatka, Leeman et al. (2017) for Tonga-Kermadec, Tonarini et al. (2007) for Central Amer-ica (Centram), and Marschall et al. (2017) for the mid-ocean ridge basalts (MORB) using an averaged Nb content of 6.3 ± 9.6 ppm (Jenner and O'Neill, 2012)

論文紹介 総合地質 7

Boschman, L.M., van Hinsbergen, D.J.J. and Spakman, W., 2021, Reconstructing Jurassic-Cretaceous intra-oceanic subduction evolution in the Northwestern Panthalassa Ocean Using Ocean Plate Stratigraphy From Hokkaido, Japan. *Tectonics*, 40, e2019TC005673. doi. org/10.1029/2019TC005673.

パンサラッサ海のプレート復元は、活動的な縁辺に囲まれた発散プレートの単純なシステムを描く。さらに、地質・地震トモグラフィーの記録は、海洋内沈み込みが存在したことを示す。我々は、本論で先白亜紀の海洋中の奥新冠島弧(北海道に露出する残存島弧)のプレートテクトニック復元を行う。奥新冠島弧は、ジュラ紀の沈み込み帯でつくられ、イザナギプレートと本論で提案する・イザナミ・プレートを分けていた。海洋環境中で活動を停止したと以前に考えられていた奥新冠島弧は、さらに伸張し、バレミアンのチャートに覆われた。活動を停止した弧は、100 Ma に北海道に付加するまで 4,500

万年の間パンサラッサ海洋底に残った.この事実は、奥新冠島弧の元々の位置が大陸縁から離れており、以前に認められていた Telkhinia スラブ上にあったことを示唆している.拡大方向の約30°の変化があった.パンサラッサプレートの再編成と弧の活動停止とが一致していること、および弧の活動停止とそれに続く弧の展張がイザナミー太平洋海嶺の沈み込みに続くイザナギプレートと太平洋プレート間の連続した拡大によってすっきりと説明されることを我々は示した.我々の復元は、奥新冠コンプレックスと同じ付加コンプレックスに属する日本の外帯が前期ー中期白亜紀の間背弧海盆によって内帯から分離されていたことを示す.本研究は、とくに地震トモグラフィーと海の地球物理学データとが結びつけられたとき、失われた海洋プレートと過去の大陸縁のプレート復元における付加造山の重要性を示している.

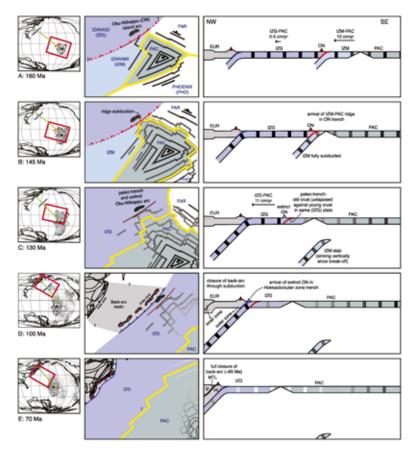
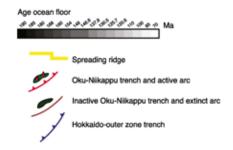


Figure 8. Reconstruction of Izanumi, Iz



Wu, J.T.-J., Wu, J., Alexandrov, I., Lapen, T., Lee, H.-Y. and Ivin, V., 2022, Continental growth during migrating arc magmatism and terrane accretion at Sikhote-Alin (Russian Far East) and adjacent northeast Asia. *Lithos*, 432–433, https://doi.org/10.1016/j.lithos.2022.106891.

大陸への実質的な付加,もしくは大陸成長は,地球の歴史を通じて最終的に我々の環境を形作るプロセスである.過去の造山の研究は,プレートに駆動された弧火成活動と収束縁に沿う物質の付加によって大陸成長が促進されることを示している.しかし,その詳細は,過去の造山の地質的な複雑さによって充分に解明されていない.特に,火成弧の役割と成長する付加縁の貢献は,未解明である.本研究は,北緯42°-52°の北東アジア大陸縁1500kmに沿う充分に研究されていない長命の火成弧を研究対象とする.限定された公表データを補完するために,我々は,シホテアリンの火成岩の新たを提示す

る. 我々は、これらのデータを総合し、シホテアリンに おける 4 つの火成活動イベントを明らかにした: 1) 134 -120 Ma S-type, 2) 110-100 Ma I-type, 3) 95-52 Ma highly-evolved I-type, 4) <46 Ma I-type. そこで、我々は、東北アジア付近の我々の新たなデータおよび公表されたデータ(n>600)と地質から、ジュラ紀から新生代における火成弧の海溝方向への 1500 km におよぶ移動を明らかにした。若く、成長する大陸縁は、以下の化学組成をもつ弧火成活動によって改変された: 1) 1.3 -1.4 % の堆積物(スラブ由来)とミックスされたマントル・ウェッジに由来する生成物、2) マグマの分別によるシリカの富化。マグマ組成は、地殻の付加と海溝方向に移動する弧火成活動を含む収束縁の大陸成長が、初生マントル起源のミキシングから出発し、地殻の分化がそれに続くことを本論で示す。

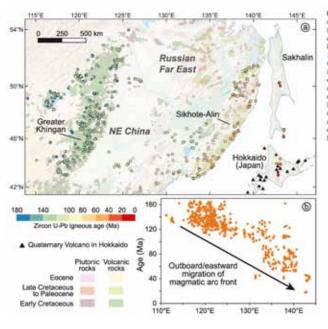


Fig. 12. 160 to 0 Ma outboard/eastward migration of 42°N to 54°N NE Asia magmatism. (a) Igatous rock distribution with 0—76 sireon age contraints in Sikhote-Alia, Sakhalia, Hok-kaido (Table A. 3), and NE Chima (Giar et al., 2019 and references therein), (b) Present largitude w. age of Igneous rocks. The NE Asia ignocus magmatic activity reveals a general castraird migratism across a — 1700 km wide areas from —115°E to 143°E since 160 Ma. We exclude an average — 200 km esotward translation of the south Sakhalia and Hókkaldo samples resulting from the Japan Sea opening, and consider a 160 Ma to present —1500 km outboard/eastward migration of 42°N to 54°N NE Asia magmatism.

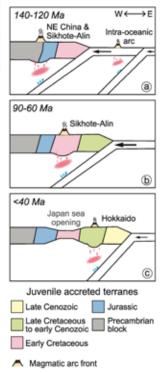


Fig. 13. Continental arc evolution of the 42°N to 52°N NE Asian margin from the Early Cretaceous to the present based on the result from this study. (a) Early Cretaceous (140 to 120 Ma): arc front moved from NE China into Jurassic accretionary belt in Sikhote-Alin (b) Late Cretaceous to early Cenozoic (90 to 60 Ma): arc front moved into early Cretaceous accreted terranes in Sikhote-Alin (c) Late Cenozoic (<25 Ma): the arc front moved entirely into the late Cretaceous to Cenozoic accretionary units in Hokkaido, after the Japan Sea opening.

論文紹介 総合地質 7

A.C.-s. Cheong, M.-J. Jung, H.J. Jo, J. Kim, S. Lee and Y.-J. Jeong, 2023, Lithospheric thinning and ignition of a Cordilleran magmatic flareup: Geochemical and O–Hf isotopic constraints from Cretaceous plutons in southern Korea. *Geosci. Front.*, 14, https://doi.org/10.1016/j.gsf.2022.101492.

北東アジアの大陸縁は、古太平洋プレートの長期間の 沈み込みによるマグマ生成物を含む。コルディレラ弧に 認められるように、北東アジア大陸縁における火成活動 の発達は、大きなパルスによって特徴付けられる。本研 究は、新たなおよび公表された南部韓半島の深成岩類の 年代・地球化学的データおよび O-Hf 同位体データを用 いて、白亜紀の火成活動 flare-up の初期段階を明らかに する. 水平沈み込みによる長期間 (~50 m.y.) の火成 活動休止と Honam 剪断帯の発達の後, 白亜紀 flare-up が京畿地塊の内陸側および沃川帯でモンゾナイト, 花崗 閃緑岩, 花こう岩の貫入で始まった. 以前の flare-up 時 に形成されたジュラ紀の花こう岩類と比べると, 沃川帯 の Eopyeong 地域に産出するアルビアン (~111 Ma) モンゾナイトは、ジルコンが高い ε Hf(t)(-7.5 ± 1.3) 値 と δ 18O (7.78‰ ±0.25‰) 値を, より低い全岩の La/ Yb と Sr/Y をもつ。同時代の京畿地塊の多量の花崗閃 緑岩と花こう岩は、Sr/Yがより小さくて範囲が狭く、 La/Yb が小さく、先カンブリア紀基盤岩よりもジルコン の ε Hf(t) 値 (ca. -30) がより大きい. これらの化学的・ 同位体的特徴は、前期白亜紀のリソスフェアが薄く、構 造的および火成作用によって厚くなったキール(以前の 沈み込みでメタゾマを受けた)の剥離 (delamination)

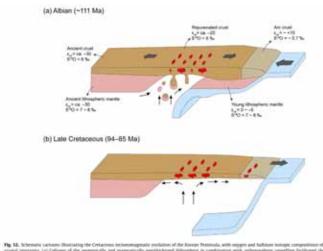


Fig. 13. Schemate is their institute of the Christophia of the Christo

に由来したことを示す. 剥離の結果生じた upwelling が flare-up の重要な切っ掛けとなった。アルビアン深成岩 の火成作用同時的なジルコン, およびそれらの原生代初 期とジュラ紀の遺存ジルコンの O-Hf 同位体レンジはこ の脱クラトン化イベント時のマグマ生成にリソスフェア マントルと地殻底部を含んでいたことを示している. そ れ故, 弧火成活動は海溝側に移動し, 後期白亜紀に最高 潮に達し,地殻の浅部に定置した広範な花崗岩質岩を生 じた. Seoraksan-Woraksan- Sokrisan 国立公園に広 く分布する後期白亜紀前期 (94-85 Ma) 花こう岩類は, 非常に珪長質で、顕著な Eu 異常をもった水平なコンド ライト規格化希土類元素パターンを示す. これらの花こ う岩類中のマグマ同時的なジルコンは、それら母岩の地 球化学とよく似ている. 剥離に関連した地殻原岩の若返 りは、花崗岩質岩のジルコンの ε Hf(t) (-6 から-20) によって示され、それは先カンブリア紀基盤の値よりも 一貫して大きい. ジルコンの O-Hf 同位体組成における コアからリムにかけての変化は、地殻同化の典型的シー ケンスとマグマ溜まりへの新たな供給を反映している。

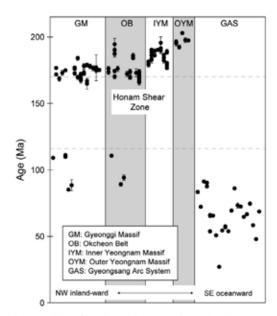


Fig. 9. Compilation of ion microprobe zircon ages for Jurassic and Cretaceous-Paleogene plutons in the southern Korean Peninsula. Dashed lines represent the approximate development and reactivation ages of the Honam Shear Zone.

Lee, T.-H., Park, K.-H. and Yi, K., 2018, SHRIMP U–Pb ages of detrital zircons from the Early Cretaceous Nakdong Formation, South East Korea: Timing of initiation of the Gyeongsang Basin and its provenance. *Island Arc*, https://doi.org/10.1111/iar.12258.

前期白亜紀慶尚盆の最下部 Nakdong 層の堆積年代を決定するために、ジルコンの SHRIMP U-Pb 年代を測定した。Nakdong 層の砕屑性ジルコンの U-Pb は、始生代から白亜紀の広い年代レンジをもつが、堆積盆の位置によった顕著な年代分布の違いを示す。南部 Nakdong 層の供給源は、主に周辺の嶺南地塊であり、同地塊は古原生代の変成岩やトリアス紀―ジュラ紀の深成岩類からなる。一方、中央と北側の Nakdong 層は、嶺南地塊の貢献と共に、北西側にある沃川変成帯からの多くの堆積物の供給を記録している。砕屑性ジルコンの最も若い年代集団に基づくと、Nakdong 層の最大堆積年代は、約127 Ma と推定される。127 Ma における堆積開始は、東アジアにおける圧縮から展張への構造環境の

転換と一致する. これは多分イザナギプレートの移動方向が斜め沈み込みに変化したことによるのだろう

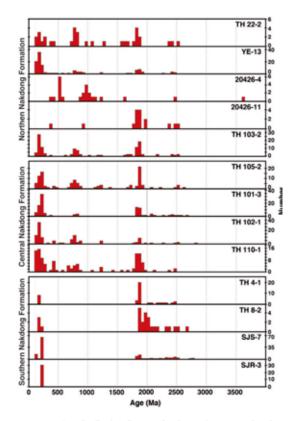


FIGURE 6 Age distribution diagrams for the northern, central, and southern Nakdong Formation

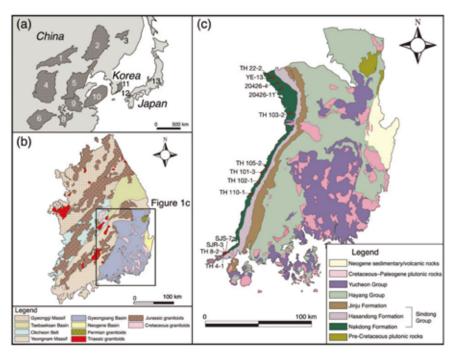


FIGURE 1 Geological maps of the study area. (a) Distribution of Cretaceous nonmarine basins in East Asia, modified after Okada (2000). (b) Simplified geology of the southern Korean Peninsula modified after S. Kim et al. (2006). (c) The Gyeongsang Basin showing sample locations, modified after Ryu, Choi, and Wee (2006). 1, Erlian Basin; 2, Songliao Basin; 3, Sanjiang Basin; 4, Ordos Basin; 5, Bohai Basin; 6, Sichuan Basin; 7, Nanyang Basin; 8, Jianghan Basin; 9, Hefei Basin; 10, Subei Yellow Sea Basin; 11, Gyeongsang Basin; 12, Kanmon Basin; 13, Tetori Basin